

バリアフリー ムーブメント

Vol.39

“いざ”じゃないとき知る知識！
“いざ”というとき引き出す知識！

バリアフリーな社会を生きるため、
必要なことを先取りしよう！

今回のテーマ
カードを丸く、利用する
人にやさしい工夫

既存の製品をより多くの人が使いたいようにしてあげるモノ、今まで使いにくかったものを使いやすくするためのモノ等、これからどんどん増えてくるバリアフリー化された製品や情報を紹介しているこのコーナー。
今回は、カードを丸く、利用する人にやさしい工夫について紹介する。
(森川 美和)

テレビゲームやインターネットの普及にともなう、電子機器のゲームが多くなってきた。一人で黙々と行うゲームのイメージが強いが、この頃は対戦カードや何人かで楽しむものも増えてきた。昔から変わらずに多くの人を楽しめる「トランプ」への人気は衰えることがない。

アナログのよさをこれからも 使いやすく見やすい バイスクルロービジョントランプ

トランプは一つあれば、一人で遊んだりすることもできる。複数の人と遊んだりすることもできる。
ゲームをしたり手品をしたり、占いをしたりとその遊びの種類は様々。

自分たちでルールを考えて新しい遊びを生み出すこともできる。工夫すれば遊び方は無限に広がるし、友達や仲間とのコミュニケーションを図るのにもとても手軽で優れたアイテムだ。

さて子どもからお年寄りまで楽しく遊べるこのトランプ、昔から人の手にやさしいさりげない工夫がある。
デザイン的なことやかわりのトランプを除いて、ほとんどのトランプは、角が丸いのだ。角が尖っていると遊んでいる時に手に角が刺さったり、傷を



(写真A)
「バイスクルロービジョントランプ」
：価格840円（アメリカ製）

【トランプのお問い合わせ先】
ニチユ（株）
〒111-0033
東京都台東区花川戸1-3-6 花川戸ビル
電話：03-3843-6431
FAX：03-3843-6430
HP：http://www.nichiyu.net/

スティックタイプの包装に 「Rカット」包装「R」

私たちが普段生活する中で、手に取る食べ物には、たいてい何かのパッケージに包まれている。紙の箱、ビン、プラスチック製のパックやボトルなど、その包装容器はさまざま。
近年、これらの包装に関して、環境やバリアフリー省力化や省資源化等に配慮したものは登場している。

多くの人に使いやすい
包装を目指して

商品を含む包装には、品物の数だけ適切な包装がある。その一つ一つに対して、要領と課題を常に整理し見出しながら包装機を作り続けてきた企業がある。

(株)東陽機械製作所(愛知・名古屋市中区)以下「東陽」だ。東陽は、1957年に設立、同年キマール自動包装機等を完成させ、現在に至るまで、薬品、食品、菓子、その他一般自動包装機の製作、設計、販売を行っている。
そんな東陽が約2年間、研究

を重ねて2001年に完成させたのが、「Rカット包装」である。多くの人に使いやすい

「Rカット包装」は、大衆薬品の箱に入った二つの薬の小袋、インスタントコーヒーやインスタントミルク粉末(用のスティック包装など)の四隅の角を直角でカットした形のものではなく、丸みを帯びた形状に加工する技術のことをいっている。

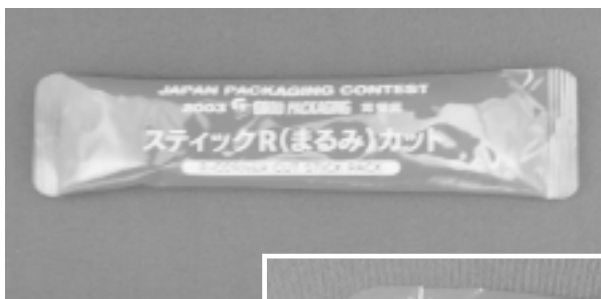
その「Rカット包装」開発のきっかけは、医療現場で働く医師の「患者さんが薬の小袋を開ける時に、角で指を痛めたり、時には傷を作ってしまったことがある。尖った角が何とかなればいいのだけれど」という一言。

製造過程において、尖った角はパッケージ同士傷ついたり、穴があいたり傷がついたりしてしまつたという指摘があり、使用者側と製造者側の両方が抱いた課題に対して、加藤薬社長は現場と共に課題を解決の

糸口を探るべく調査、開発に乗り出した。
その結果、誕生したのが「Rカット包装」である。

「Rカット包装」は、切り口(開け口の表示)が分かりやすく開けやすくなり、開けやすいように切り込みが入っているため、子どもから高齢者まで扱いやすい。

包装容器は、その中身を出してしまえばゴミになってしまう。その配慮にはなかなか驚きにくく、
まして一時的なものだからと、不変でも扱いにくくても仕方ないとあきらめてしまっている人も多いのではないだろうか。そんな見えない部分であっても、使用者の声をきき、不便さを解消しようとする東陽の取り組みは、今後の企業のあり方の手本となるものだ。



【包装機のお問い合わせ先】
(株)東陽機械製作所
電話：052-793-1600
FAX：052-794-9636
HP：http://www.toyo-mc-mfg.co.jp/

(PR)財団法人共用品推進機構 ☎03-5280-0020 / FAX03-5280-2373
URL: http://kyoyohin.org/ E-mail: jimukyoku@kyoyohin.org